

藤島 英語討論世界2位

大阪で即興型高校大会

誰もが納得の主張展開

高校生の第4回即興型英語ディベート世界交流大会が18〜20日、大阪府泉佐野市内のホテルで国内外の18チームが参加し開かれ、藤島高(福井市)が初出場で準優勝に輝いた。メンバーは「国によって価値観は異なるが、誰にでも受け入れられる意見を出せたい」と喜んだ。
(小林真也)



高校生の即興型英語ディベート世界交流大会で準優勝した藤島高チーム。20日、大阪府泉佐野市

藤島は昨年12月の全国大会で初優勝し、出場権を得ていた。

大会は一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(大阪府)が主催。韓国やマレーシア、モンゴルなど海外15カ国から12チーム(合同チーム含む)と、藤島など日本の6チームが参加した。

即興型英語ディベートは開始15分前に論題と肯定・否定側が決められ3人1チームで議論、大学教授ら国内外の審査員が説得力などを評価する。藤島は昨春創部したSSH国際教養部の部長澤崎遥夏さんと部員の高崎千実さん、城戸明日香さん(いずれも2年)で臨み、予選で2勝を挙げて突破して決勝ト

ーナメントに進んだ。

「LGBT(性的少数者)のための学校をつくるべきか」で肯定側となった1回戦で韓国チームを3-0で破ると、米国での個人の銃規制を論題とした準決勝も肯定側に立って予選1位のフィリピンチームを4-1で撃破。決勝は全国大会でも決勝で対戦した渋谷教育学園渋谷高(東京)に敗れた。

藤島チームは論題が決まると、3人で話し合って主張する内容を日本語でメモし、本番ではメモを基に英語で論戦を展開した。部長の澤崎さんは「英語は海外チームの方が話し慣れていて、主張に文化的な背景や価値観の違いが表れる中、世界中の誰もが納得できそうな内容をできるだけ多く盛り込んだ」と話す。

「準優勝はうれしいけれど、決勝は一度勝った相手に負けたのでちょっと複雑」と藤島の後輩たちに続いてほしい」と期待していた。